

キャリア教育の中核的実践場面 としての特別活動

平成28年2月24日

筑波大学 人間系 教育学域
教授 藤田 晃之

CAREER EDUCATION



① ②

重要事項の再確認 改めて「キャリア教育」とは？

—不可欠な「草創期のキャリア教育」の残像からの離脱—

CAREER EDUCATION



③ ④

平成23(2011)年中教審答申による 現状把握

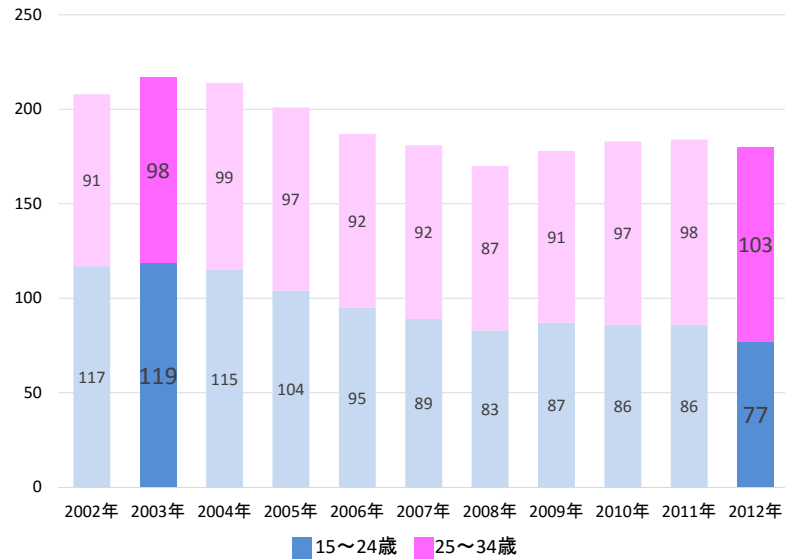
- キャリア教育の必要性や意義の理解は、学校教育の中で高まってきたてきており、実践の成果も徐々に上がっている。しかしながら、「新しい教育活動を指すものではない」としてきたことにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、「体験活動が重要」という側面のみをとらえて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されるなど、一人一人の教員の受け止め方や実践の内容・水準に、ばらつきがあることも課題としてうかがえる。
- このような状況の背景には、キャリア教育のとらえ方が変化してきた経緯が十分に整理されてこなかったことも一因となっていると考えられる。このため、今後、上述のようなキャリア教育の本来の理念に立ち返った理解を共有していくことが重要である。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

草創期のキャリア教育の焦点

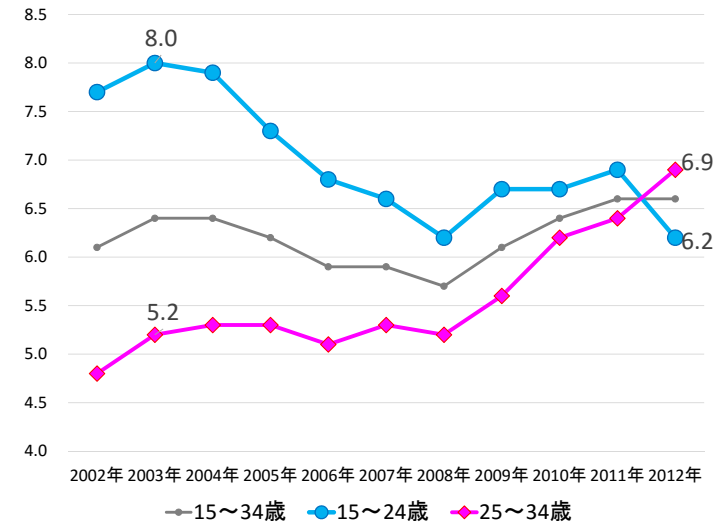
- ニート・フリーター問題への対応策のひとつとして登場(1999[平成11]年・中教審答申、2003[平成15]年・若者自立・挑戦プラン)
↓
- 「小学校では早すぎる」との評価の定着化
- いわゆる「進学校」と評される高校での不活性化
 - むしろ、キャリア教育への否定的態度の助長
- 予算がついて全国展開する「中学校での職場体験活動」の突出化(2005[平成17]年度～文科省「キャリア・スタート・ウィーク」)
 - なんだ、キャリア教育っていうのは、中学で職場体験をさせればいだけなんだ……

フリーターの数の推移



総務省「労働力調査」

当該年齢階級人口に占めるフリーターの割合



総務省「労働力調査」

キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

●「キャリア」とは何か？

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。(中略)このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

また、このように、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。
例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。
例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

キャリア教育を通して育てる 基礎的・汎用的能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。
例えば、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。
例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。(第1章3(2)③)



キャリア教育推進の2本柱

「第2期教育振興基本計画」平成25年6月

【主な取組】

1 3-1 社会的・職業的自立に向け必要な能力を育成するキャリア教育の推進

- ・ 幼児期の教育から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実し、特に、高等学校普通科におけるキャリア教育を推進する。
- その際、子ども・若者の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じた指導を進めるとともに、地域におけるキャリア教育支援のための協議会の設置促進等を通じ、職場体験活動・インターンシップ等の体験活動や外部人材の活用など地域・社会や産業界等と連携・協働した取組を推進する。特に大学においては、産業界の協力を得て、国内外でのインターンシップの機会を大幅に増やす。

- ① 子ども・若者の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じた指導をすすめるとともに、（中略）
- ② 職場体験活動・インターンシップ等の体験活動や外部人材の活用など地域・社会や産業界等と連携・協力した取組を推進する。

特別活動が目指すもの

特別活動の目標

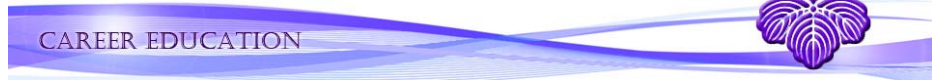
- 小学校
 - 〈目標〉望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。
- 中学校
 - 〈目標〉望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。
- 高等学校
 - 〈目標〉望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

◆ 指導計画の作成と内容の取扱い[抄]（中学校の例）

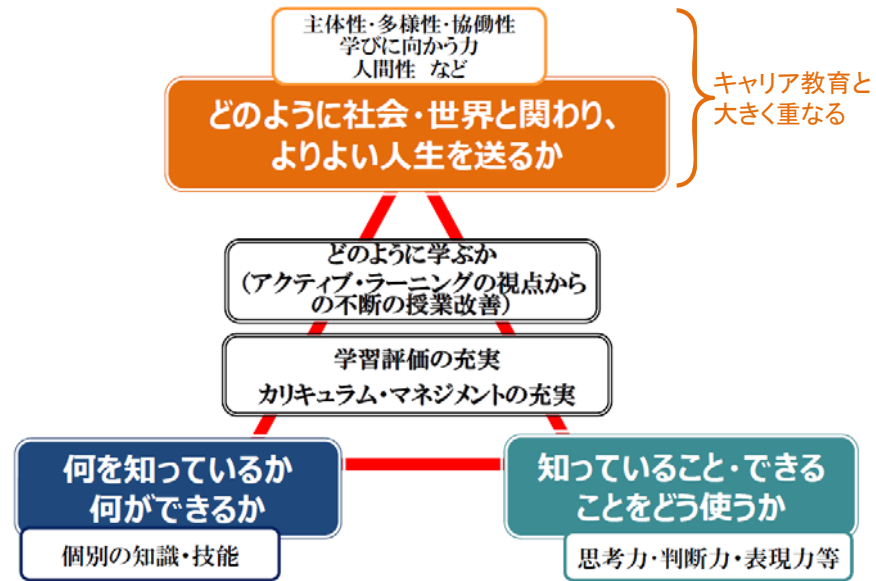
- ◆ 特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階などを考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。



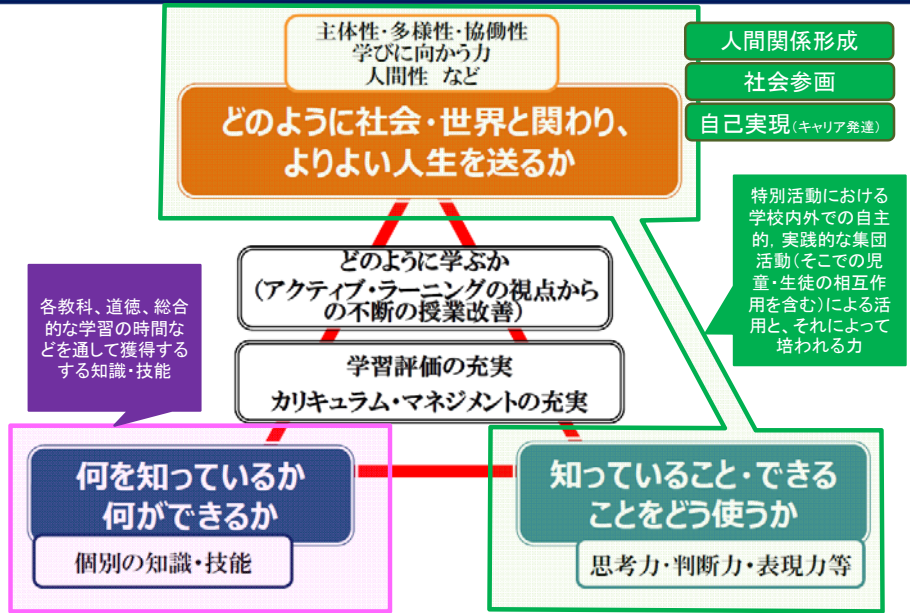
キャリア教育と特別活動との関係



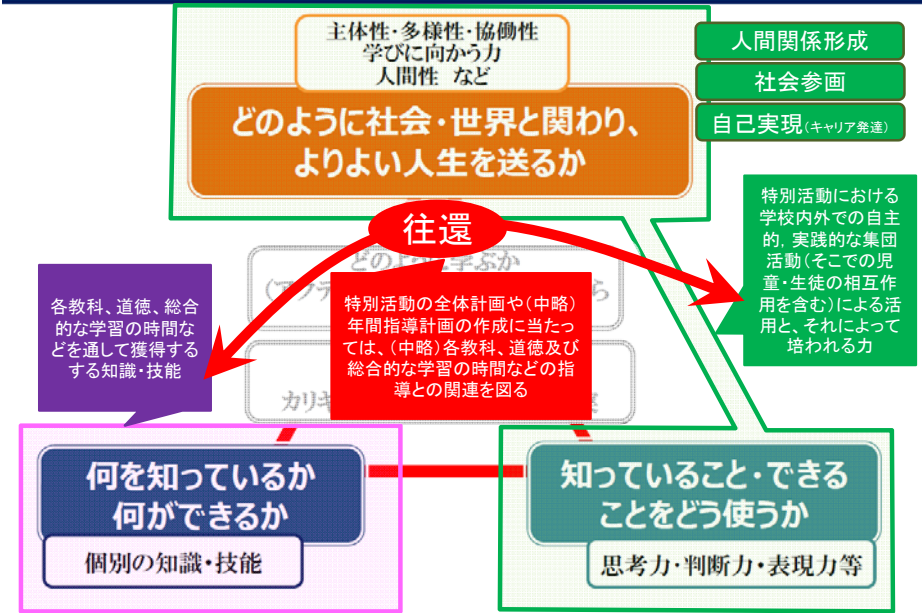
育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念



育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念



育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念



公民科新設科目の方向性として考えられる構成① (たたき台案)

新必修科目(案)

国家・社会の形成者を育成

平成28年1月28日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民ワーキンググループ
資料7

(1)「公共」の扉

別紙

「行為の結果において社会的効用としての幸福を重視する考え方」と
「(行為の結果よりも、)行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

⇒社会を構成する主体となるために、協働の必要理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。
その際、自立した主体として生きるために必要な知識を身に付けるとともに、現実の社会的事実と関連付け、習得した概念等を応用する。

- ア 政治的主体となること**
 - ⇒協働により目指すべきもの(議論により、意見や信念、利害の対立状況を調整し、合意形成することを通して、よりよい社会を築くこと)
 - ・基本的人権の保障、国民主権、議会制民主主義、権力分立に基づく政治機構、政治参加の重要性、世論の形成の意義、財政と税、国際貢献、国際平和・・・
- イ 経済的主体(生産者、労働者)となること**
 - ⇒協働により目指すべきもの(公正なルールを作った上で経済活動を行うことを通じて、個人の専断・経済の拡大とともに成り立たせること。またその補完を政府等が担っている)
 - ・市場経済の機能と限界、政府の役割(税を含む)、金融、職業選択、男女共同参画、雇用、労働問題(労働法を含む)、社会保障、個人や企業の経済活動における役割と責任、経済のグローバル化や相互依存関係の深まり・・・

キャリア教育の中核機能

学習活動の例

討論、ディベート
模擬選挙、模擬投票
模擬裁判
外部の専門家の講演
新聞を題材にした学習
体験活動、インターシップの準備と振り返り・・・

関係する専門家・機関

選挙管理委員会、企業、経済団体、起業家、弁護士、報道機関、消費者センター、留学生、NPO、NGO・・・

- ウ 法的主体となること**
 - ⇒協働により目指すべきもの(個人の専断を前提に、比較衡量などを通して、人間の尊厳と平等、社会の安定性をともに成り立たせること)
 - ・民主主義、立憲主義、自由・権利と責任・義務、相互承認、所有、公正な手続き、参加・・・
- エ 様々な情報を発信・受信する知的主体となること**
 - ⇒協働により目指すべきもの(情報に関する責任や、利便性と安全性を多面的・多角的に考えうることを通じて、望ましい情報社会を築くこと)
 - ・情報モラル、消費者の権利や責任・・・

⇒様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティ
⇒世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、持続可能な地域、国家、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

- ア 地域の創造**
- イ 持続可能な社会**
- ウ 我が国と国際社会**
 - ・地域の活性化、安全に配慮したまちづくり、持続可能な社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和・・・などについて探究

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を保健体育科と連携

教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ(第4回)平成28年1月28日 配付資料7 より転載

学びのプロセスを記録し、振り返り、
評価するためのツールとしてのポートフォリオ
(キャリアパスポート[仮])導入の提言



CAREER EDUCATION

兵庫県の実例



小学生・中学生用 = <http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/career/career.htm>
高校生用 = <http://www.hyogo-c.ed.jp/~koko-bo/career/thema.html>

※兵庫県の他、青森県、愛知県、広島県、川崎市(小・中・高)、秋田県、福井県(小・中)などでも域内全校で実施

小学校版

【作成にあたって】
小学校版キャリアノートモデルは、自分を見つめ、役割を振り返ることで自尊感情や自己有用感を高め、動向や職業観の形成を図るとともに、自分自身のキャリア発達を振り返ることができるよう書き込み式のノートとして作成しています。
キャリアノートモデルを参考に、各学校や児童の実態に応じたキャリアノートを作成してください。

【ページの構成】
自分自身を見つめるページ、学校・家庭(・地域)での役割を振り返るページ
1年間の自分のがんばりを振り返るページ

| 目次 | 項目 | 使用時期 |
|------|------------------|------------|
| 第1学年 | 1 ねんせいのわたし | 1学期後半 |
| | じぶんのしていることをかこう | 2学期後半 |
| 第2学年 | 1年生でのがんばりをふりかえろう | 1年間を振り返る時期 |
| | 2年生のわたし | 1学期後半 |
| 第3学年 | じぶんのしていることをかこう | 2学期後半 |
| | 2年生でのがんばりをふりかえろう | 1年間を振り返る時期 |
| 第4学年 | 3年生のわたし | 1学期後半 |
| | 自分のしていることを書こう | 2学期後半 |
| 第5学年 | 3年生でのがんばりをふりかえろう | 1年間を振り返る時期 |
| | 4年生のわたし | 1学期後半 |
| 第6学年 | 自分のしていることを書こう | 2学期後半 |
| | 4年生でのがんばりをふりかえろう | 1年間を振り返る時期 |
| 第1学年 | 5年生のわたし | 1学期後半 |
| | 自分のしていることを書こう | 2学期後半 |
| 第2学年 | 5年生でのがんばりをふりかえろう | 1年間を振り返る時期 |
| | 6年生のわたし | 1学期後半 |
| 第3学年 | 自分のしていることを書こう | 2学期後半 |
| | 6年生でのがんばりをふりかえろう | 1年間を振り返る時期 |

中学校版

| 目次 | 項目 | 使用時期 |
|------|------------------|----------------|
| 第1学年 | 自分を知ろう | 4月～5月 |
| | なぜ、私たちは学ぶのだろうか | 2学期中頃～後半 |
| | 将来の自分を見つめよう | 2学期中頃～後半 |
| | 人とのつながりを考えよう | 地域の行事等の時期 |
| 第2学年 | 「トライやる・ウィーク」に向けて | トライやる・ウィーク事前 |
| | 自分の行動を将来に生かしているか | 1年間を振り返る時期 |
| | 将来の自分を見つめよう | 4月～5月 |
| | トライやる・ウィークを終えて | トライやる・ウィークの事後① |
| 第3学年 | 働くことについて考えよう | トライやる・ウィークの事後② |
| | 人とのつながりを考えよう | トライやる・ウィークの事後③ |
| | 進路について考えてみよう | 2学期後半 |
| | 自分の行動を将来に生かしているか | 1年間を振り返る時期 |
| 第4学年 | 将来の自分を見つめよう | 4月～5月 |
| | 希望する進路先を調べよう | 1学期後半 |
| | 人とのつながりを考えよう | 地域の行事等の時期 |
| 第5学年 | 自分の将来を創りだそう | 1年間を振り返る時期 |

ポートフォリオ(キャリアパスポート^[仮])への期待

- キャリア教育によって身につけさせたい力(基礎的・汎用的能力)は、「各教科、道徳、総合的な学習の時間」と「特別活動における学校内外での自主的、実践的な集団活動(そこでの児童・生徒の相互作用を含む)」との往還によって培われる。
- この学びのプロセスを記録し、振り返り、評価する(自己評価を含む)ためのツールが必要。
 - 質問紙による評価のみでは、児童生徒の成長・変容を包括的に見取することはできない。
 - 【例】生徒の視野が広がり、認識が深まると、自己肯定感や自己有用感は一時的に下がる。
 - 自らの成長・変容は、記録を残し、それを振り返ることを通してのみ実感できる(過去の自分との再会。自らの「頑張り」を顧みることを通して肯定的自己評価・自己理解。)

【参考】オハイオ州「キャリアパスポート」の事例

キャリアパスポートの実践
—オハイオ州—

- 8学年から「個別キャリア計画 (Individual Career Plan, ICP)」
 - 進路学習に資する個別資料
 - 「年次ごとの履修計画・卒業後の進路計画記録用紙(Career Pathway)」
 - 「自己理解及び職業体験記録用紙(Career Skills Builder)」
 - 「職業興味・適性検査結果及び州統一到達度試験結果等記録用紙(Assessment Record)」
- 11学年から「キャリアパスポート」
 - ICPに並行して作成されるポートフォリオ
 - 高校卒業後の進学・就職における第三者評価

労働政策研究・研修機構 第2回労働政策フォーラム「教育から職業へ—欧米諸国の若年就業支援政策の展開—」 藤田発表資料より (2004年2月19日)

【参考】オハイオ州「キャリアパスポート」の事例

キャリアパスポートの実践

- キャリアパスポート収録書類(例)
 - a. 学校区教育長または学校長認定書(推薦書)
 - b. 履歴書
 - c. 各種技能証明関係書類(自己紹介/将来計画書[narrative]、調査書、職業技術習得証明書類)、
 - d. その他任意書類(課外活動記録、受賞記録、作品録等)
- 従来の調査書ではカバーしきれない多様な学習経験に対する、進学・就職時の評価の樹立

労働政策研究・研修機構 第2回労働政策フォーラム「教育から職業へ—欧米諸国の若年就業支援政策の展開—」 藤田発表資料より (2004年2月19日)

【参考】オハイオ州「キャリアパスポート」の事例

- 現在、「キャリアパスポートの完成」は、ハイスクール「職業教育コース(intensive career-technical education curriculum)履修者用卒業要件」の一つ。
 - ルーブリックを用いた評価の対象
 - Ohio Department of Education Office of Curriculum and Assessment (2015), *Ohio's State Tests Rules Book*, p.25
- キャリアパスポートのデジタル化。その作成支援とデータ保存に関する報告書は、ハイスクール「職業系列コース」の設置継続認可のための必須提出書類。
 - 在籍者の記録、出欠の記録、教育課程表、評議委員会の議事録、施設・設備簿、担当教員の現職研修参加記録等と並ぶ
 - Ohio Department of Education Office of Career Technical Education, Documentation Requirements: FY 2014